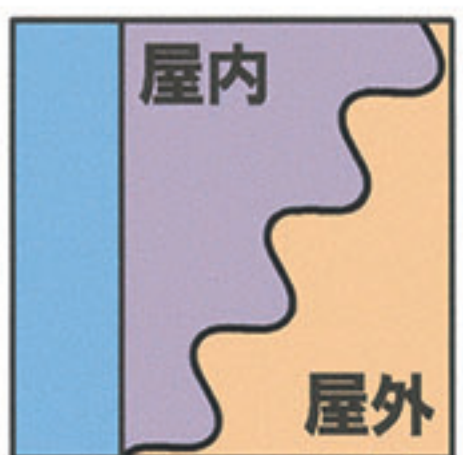
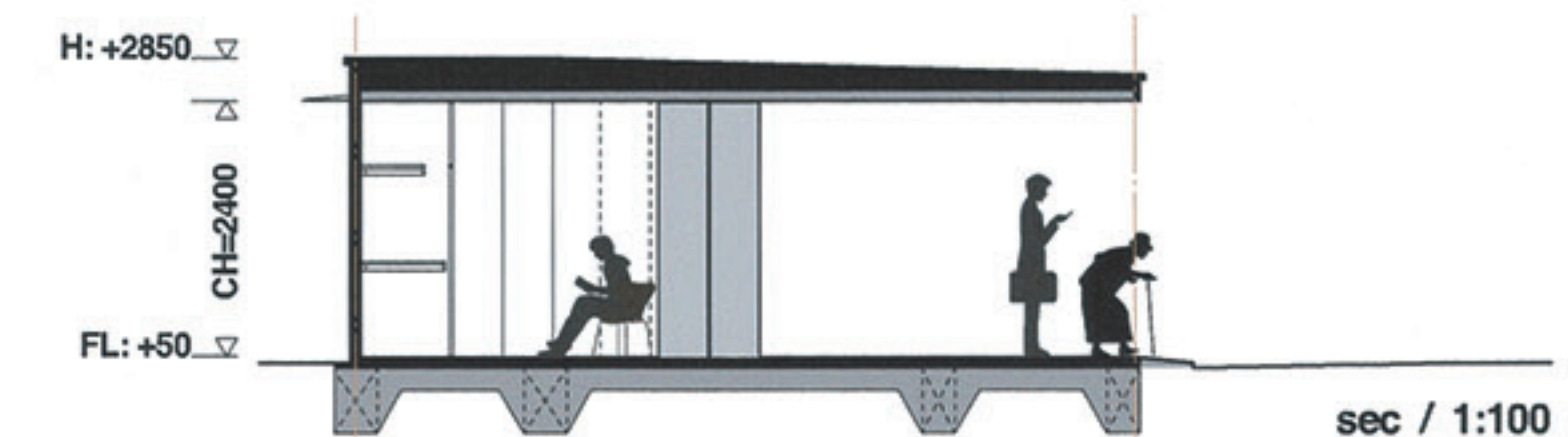
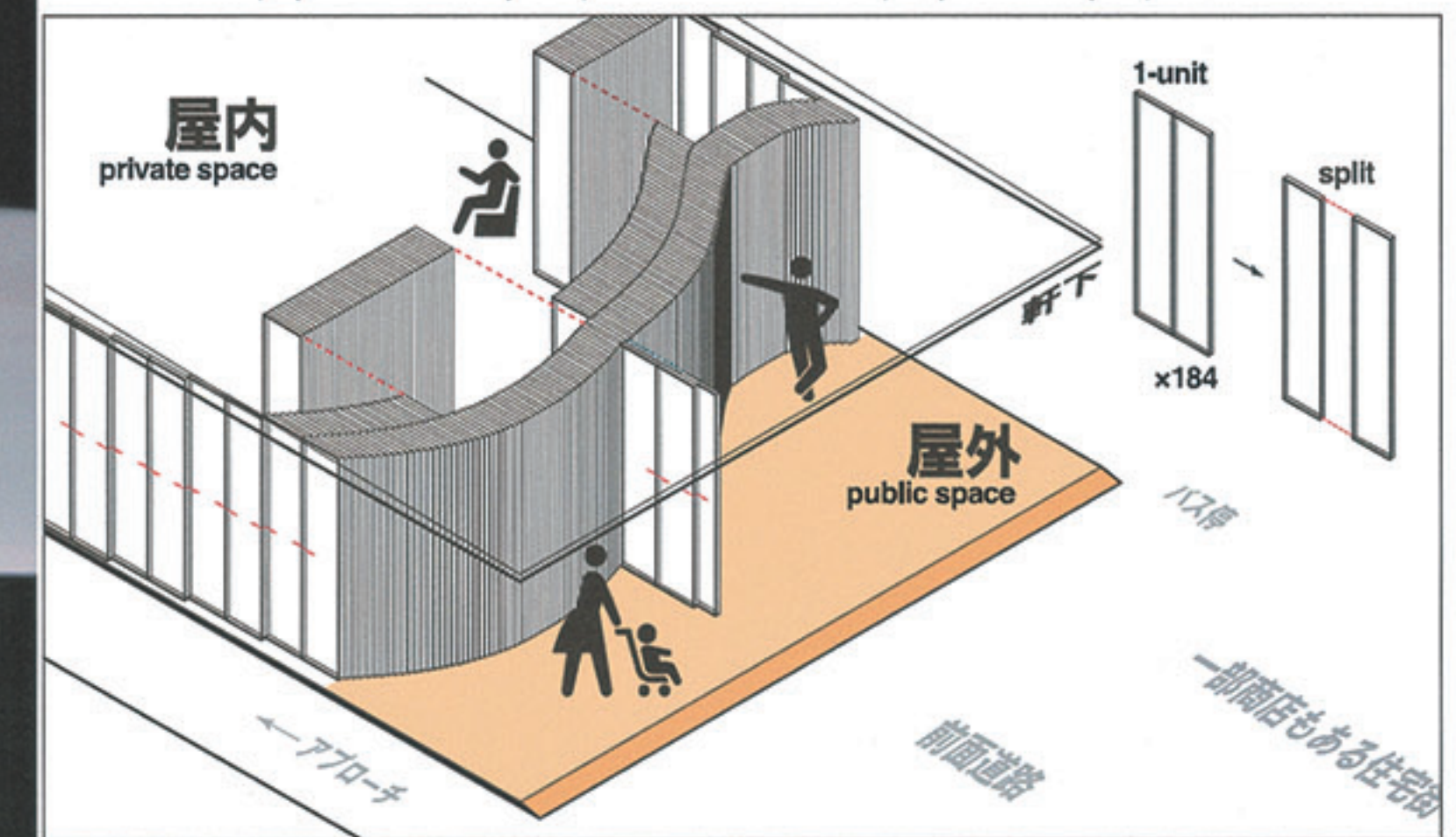
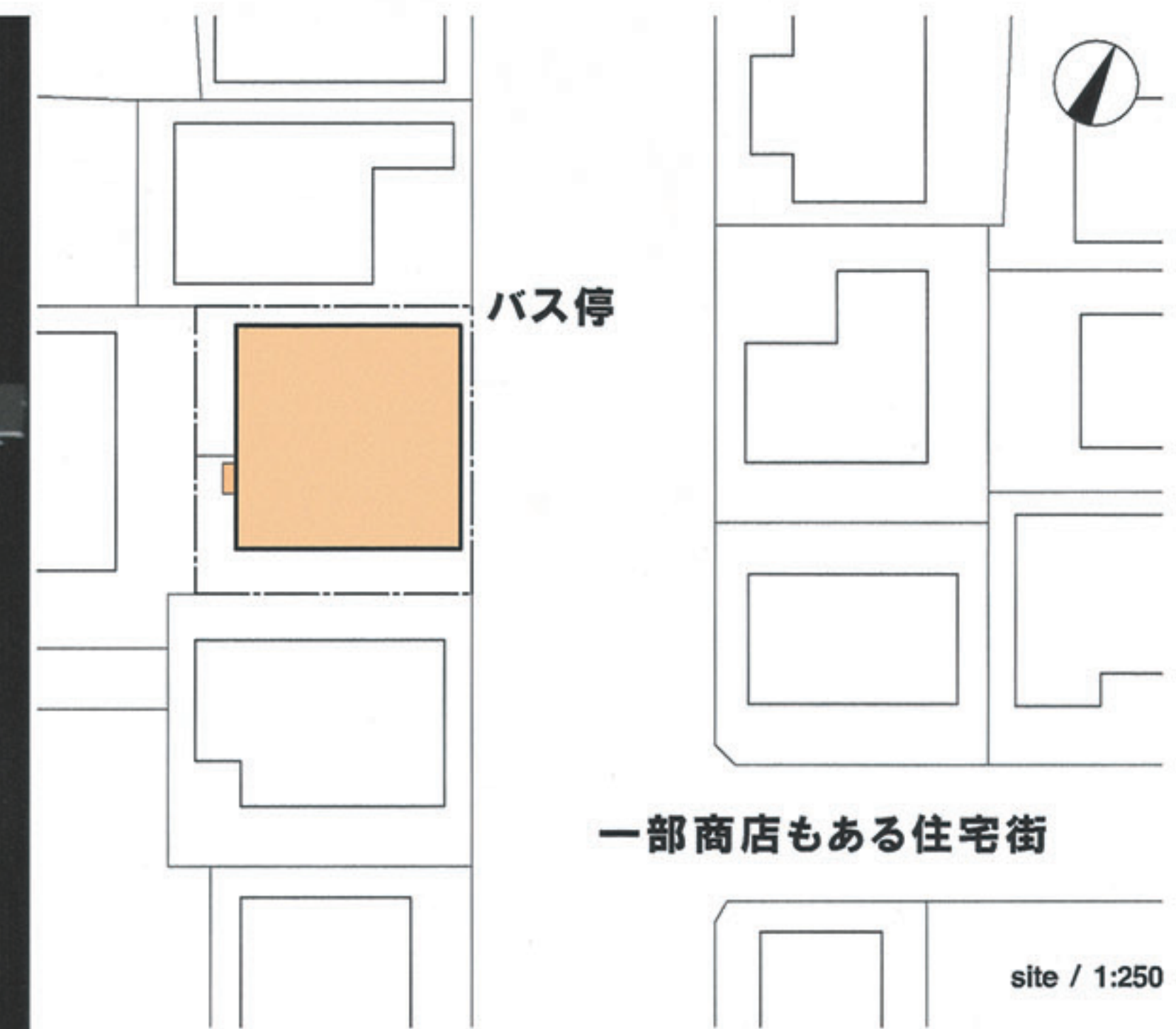
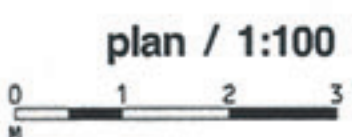
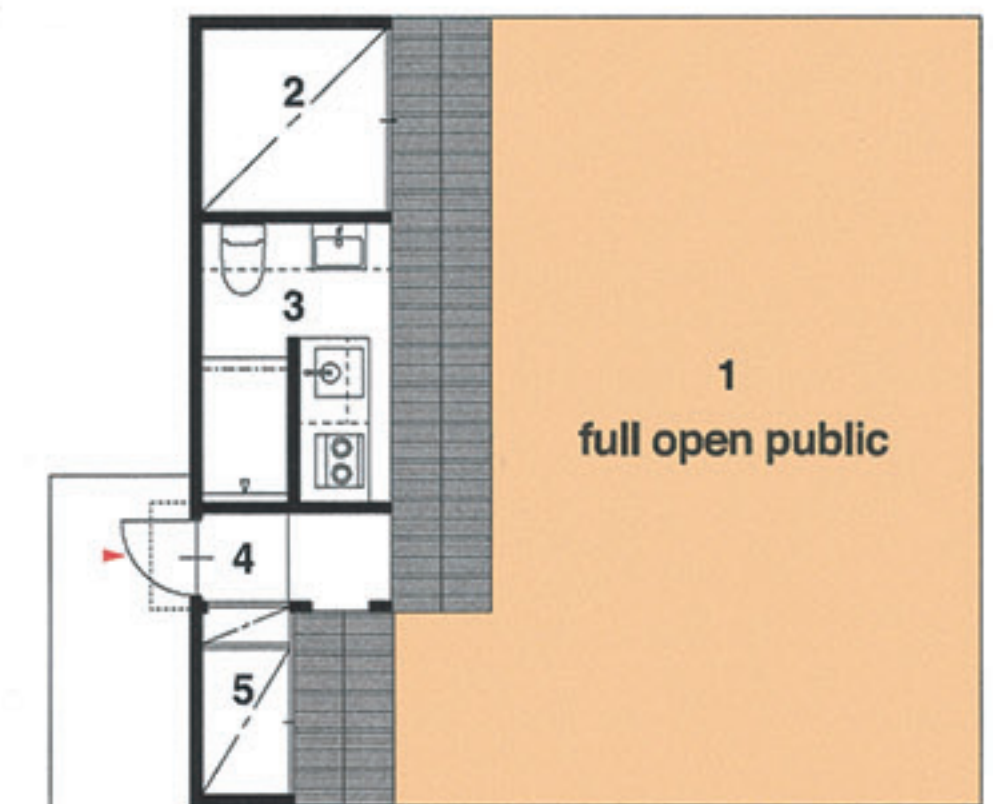
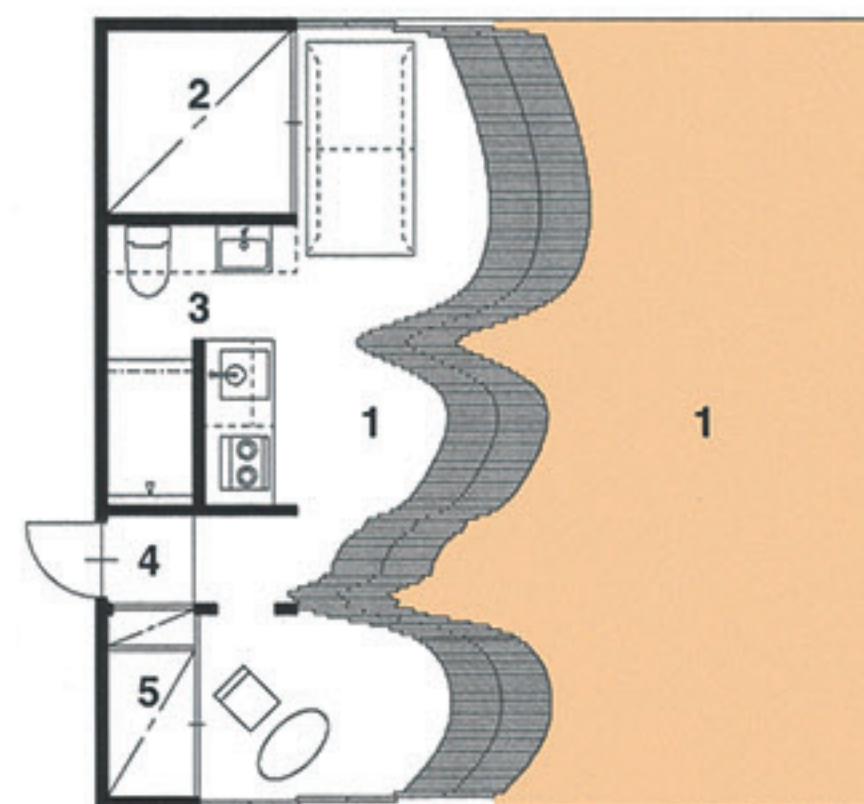
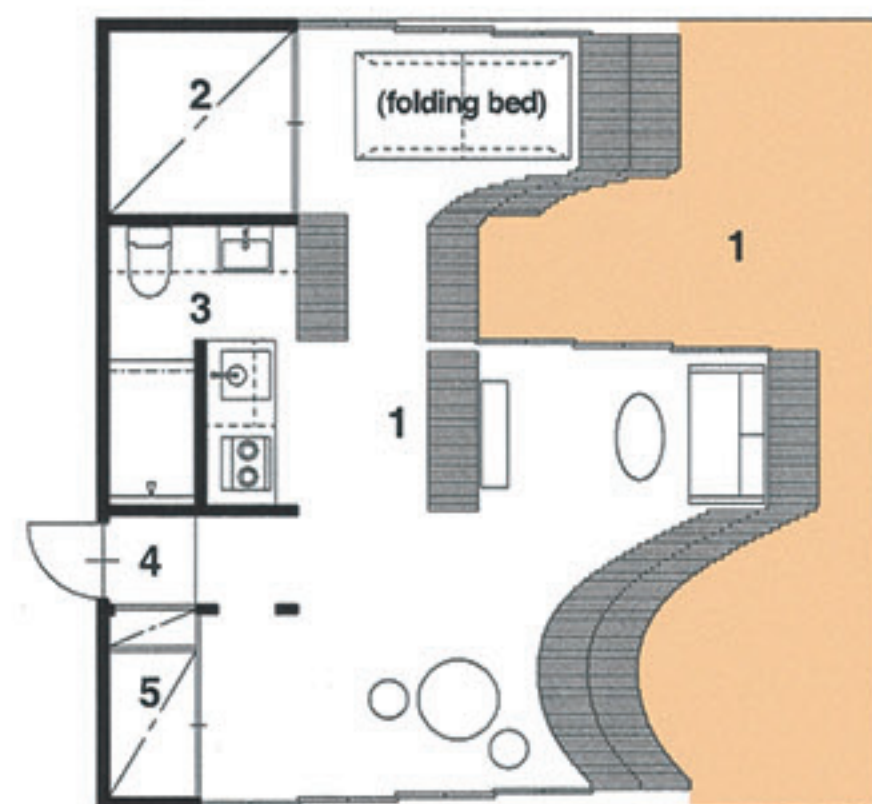
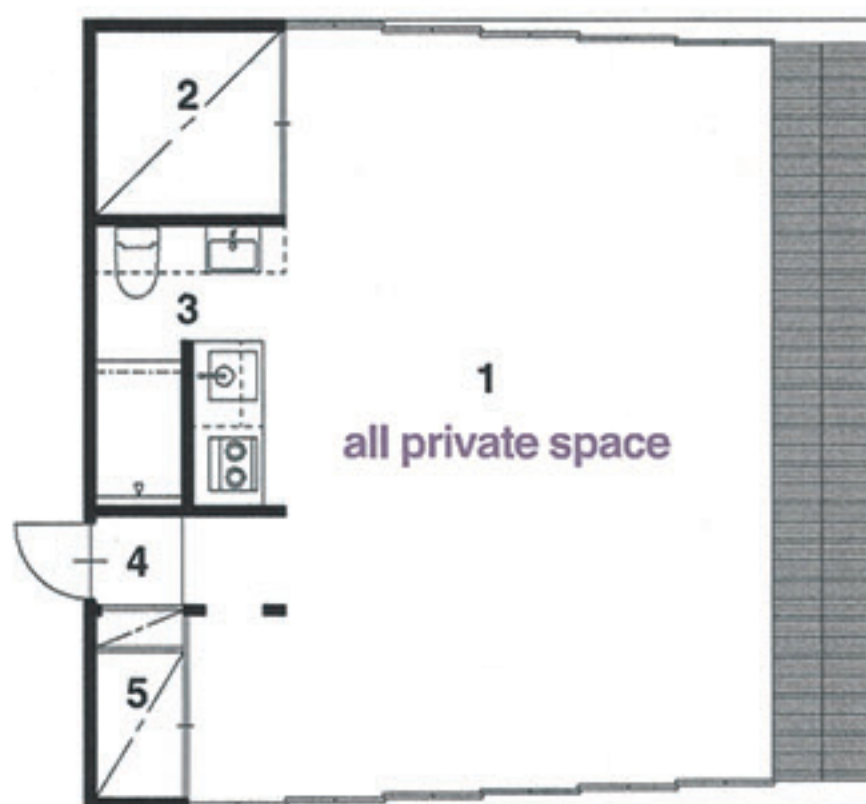


Borderless is more

建具がびっしり建ち並ぶ家。



- 1: private space
- 2: storage (furniture, property)
- 3: wet area
- 4: entrance
- 5: closet



太っ腹メーター

1. private/public space
2. storage (furniture, property)
3. wet area
4. entrance
5. closet

住まいにおける太っ腹とは、私的な自身のテリトリーが他者に優されるのを許容することである。その太っ腹さは度合いで推し量るため一定にならない。つまり許容度はその都度変化する。この住宅は建具の開閉で屋内外の面積範囲がその都度変化する。

バスも通る一部商店も並ぶ住宅街に建つ、単身者平屋建て住宅。室の床全てが引戸レール（184本引のサッシ）できている。間口方向が何重にも連なる引戸建具でびっしりと詰まっていて、建具は見付面だけでなく見込側、小口も壁面として機能する。

建具の重層で屋内と屋外（軒下）に二分され、その割合は刻々変化する。単身都市生活者は1日の活動の大半を都市に依存するため外出中に室は不要で、また常に広い室が要る訳でもない。軒下は雨宿りやバス待ちに遠慮気味に使われはじめ、やがて井

戸端会議等のたまり場になっていく。それでもいつまでも一時的なものなので住人も意に介さなくなり、街には太っ腹な家だと思われるようになるだろう。ともあれ余計な費用がかさむこんな住宅を建てようというひとは、太っ腹に違いないけれど。